

●ストーリー

歴史・文化・自然等をテーマとした“物語”です。歴史文化資産を特徴づけ、市内外の人々の興味を引きつけます。

●ルート

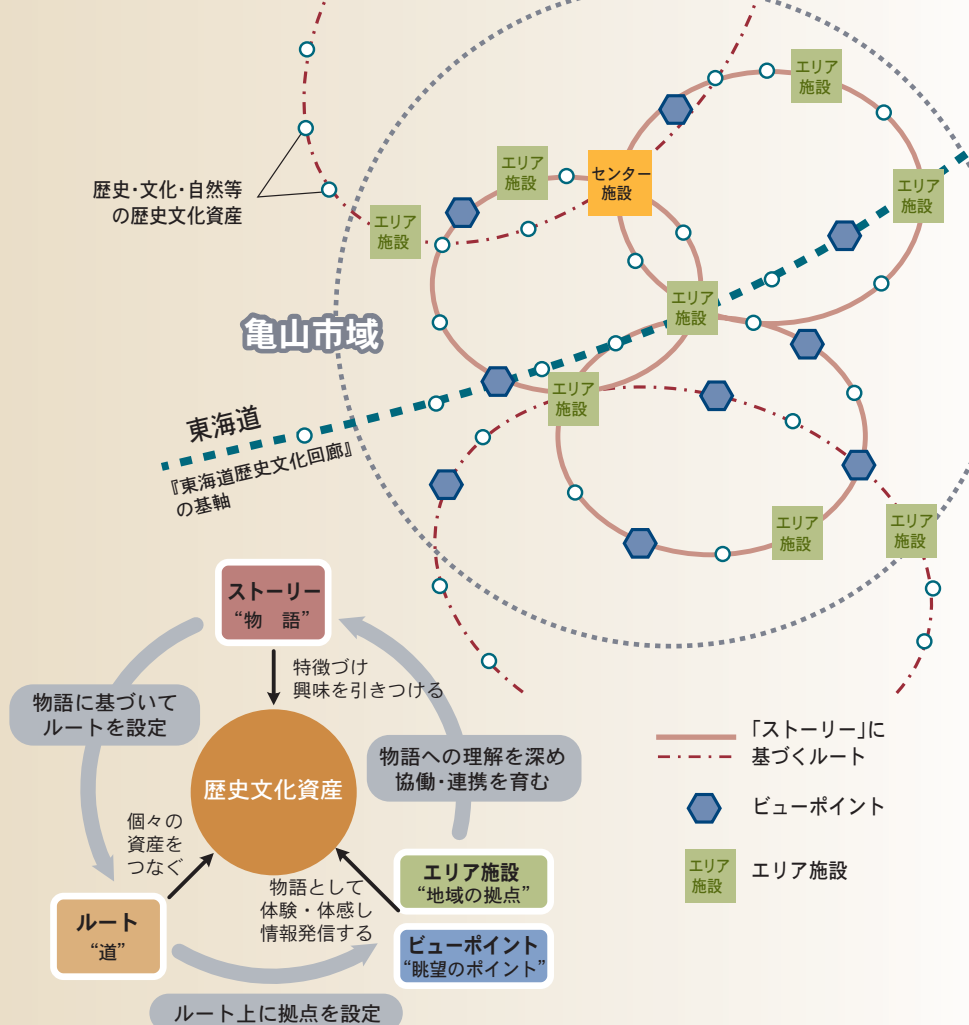
それぞれの「ストーリー」に基づき、歴史文化資産をつないだ“道”です。「東海道」を基軸に市内全域や市外へと多様な「ルート」を設定します。

●エリア施設

市民や来訪者の“活動・交流・情報拠点”であり、「ルート」を巡るとき“起点”にもなります。人が集まる施設や「ストーリー」上の重要な歴史文化資産を設定します。

●ビューポイント

「ストーリー」の魅力を感じられる“眺望のポイント”です。周辺環境と調和した歴史文化資産の保全や景観形成の拠点となります。



例えば、こんな物語（ストーリー）でルートの設定や活動を展開していきます。

関氏一族の志賀直哉が見た亀！ 鉄道遺産にふれる ヤマトタケルを偲ぶ 伊勢亀山城をゆく 秀吉が来た！

ストーリー名
秀吉が来た！
秀吉が戦った城・秀吉と戦った城

あらすじ
本能寺の変による信長の没後、秀吉の天下統一の戦の中で亀山城・峯城は秀吉によって攻められました。ここでは特に天正11年(1583)の秀吉による峯城攻めに注目し、城を攻めた秀吉側と城を守った峯城側のそれぞれの視点にたつて、繰り広げられた戦に関連する城跡や街道、寺院を時系列で追います。これに伝承・伝説や周辺の豊かな自然を併せて、ダイナミックなストーリーを味わえます。

物語の体験・学習・交流

地域施設を活動・交流の場に 城跡の遺構を読み解くツアー 野元坂館跡での体験メニュー

ビューポイントからどう攻め、どう防ごうとしたのか、両者が対峙した城跡が一望にできます



『東海道歴史文化回廊』の創出に関する方針

概要版

古くから東西交通の要衝として栄えてきた亀山市には、歴史上、重要な役割を担ってきた歴史文化遺産が数多くあります。それらは、地域の中で大切に守り受け継がれてきた貴重な「資産」です。

『東海道歴史文化回廊』は、東海道を基軸として市内にあるさまざまな歴史文化資産をつなげ、人々の暮らしとともに守り活かしていくことで、地域に、そして亀山市に交流の輪と一体感を醸成することをめざすものであり、このリーフレットは、その考え方と方向性を示すものです。

問い合わせ先

亀山市教育委員会 まちなみ・文化財室

〒519-0195 三重県亀山市本丸町577番地 電話 (0595) 84-5078 FAX (0595) 82-6161

E-mail shakyou@city.kameyama.mie.jp ホームページ http://www.city.kameyama.mie.jp

①	
②	⑤
③	⑥
④	

- ① 関宿のまちなみ
- ② 二之丸帯曲輪
- ③ 亀山城多門櫓
- ④ 関西鉄道に関わる鉄道遺産
- ⑤ 鈴鹿関跡からの眺望
- ⑥ 阿野田のかんこ踊り

「遺産」から「資産」へ

「遺す」から「活かす」への展開

亀山市では、

文化財を『^{のこ}遺す』ことから、 歴史文化資産として『^い活かす』方向に 大きく展開していきます。

『東海道歴史文化回廊』は、そのための「しくみ」なのです。

これまで歴史文化遺産の保全は、ひとつひとつを文化財として指定し、保存・整備することを積み重ねてきました。しかし、この方法は、歴史文化遺産を守り伝えてきた地域の生活との関係や歴史文化遺産を積極的に活用していく視点が十分ではなかったために、市民との関わりも興味のある人に限定される傾向にありました。

亀山市では、このような反省にたって、市民の日々の暮らしの中で歴史文化遺産が守られ活かされるよう、歴史文化遺産の背景にある悠久の歴史が育んできた「物語」を改めて捉え直し、その「物語」により歴史文化遺産をつないでいくことで、歴史文化遺産の活用の可能性や市民との関わりを高めていく新たな取り組みを展開することにしました。そのための「しくみ」が、『東海道歴史文化回廊』です。

東海道 歴史文化回廊 とは？

『東海道歴史文化回廊』って？

地域の「歴史」、「文化」、「自然」などの資産を、「東海道」を基軸に、人々の興味と関心の湧くさまざまな「物語」でつなぎ、暮らしや活動の中で守り活かしていくことで、地域に、そして亀山市に交流の輪と一体感を醸成していくしくみです。

なぜ『東海道・』なのでしょう？

『東海道』は、江戸時代に限らず、奈良時代には都のある奈良から加太峠を越えて、また都が京に移ってからは鈴鹿峠を越えて亀山市域に入り、市内を貫通していました。明治時代以降も国道1号として引き継がれ、東海道は、古代から現代まで亀山市域を横断し、そして、亀山市域にある歴史の道は、すべてが東海道につながっています。そのため、ここでは東海道を基軸に市内全域をつなぐ歴史文化回廊を創出する意味で『東海道』を使っています。

なぜ「資産」と呼ぶのでしょうか？

歴史文化にかかわって地域にあるものは、たまたま残っているのではなくて、地域で生活する人によって守り受け継がれてきたものです。だからこそ、私たちはその大切な地域の「資産」を「歴史文化資産」と呼び、みんなで積極的にまちづくりに活かしていきたいと思います。

目的と
取り組みの
ステップ

いさん 遺産 から しさん 資産 へ

ジャンプ

『^{のこ}遺す』から
『^い活かす』へ

地域で守り伝えられてきた歴史文化資産を保全し、地域のまちづくりに積極的に活かしていきます。

まちづくり
への貢献

ステップ

そして『^い面』への展開……

歴史文化資産を「景観」として体感でき、その価値や物語をより理解できるように周辺環境と一体的に保全します。

景観として
の体感

ホップ

点から『^い線』へ……

個々の歴史文化遺産を結びつける「物語」を作り上げ、物語に沿ったルートでつなぐことで、誰もが遺産の価値に気づき、資産として活用しやすくします。

物語の創造

東海道
歴史文化回廊
による効果

「物語」の紡ぎ出す世界が、歴史文化資産の価値や可能性への『^い気づき』を高めます。

歴史文化資産の保全

- 地域に伝わる歴史文化資産の保全と活用が進められる

景観形成への寄与

- 市民の景観に対する意識を高める
- ビューポイント（歴史文化資産の眺望点）を景観行政に活用する

まちづくりへの寄与

- 市民の地域の歴史文化資産に対する『^い気づき』を高める
- 世代や地域を超えた連携・交流を促進する
- 住みやすさの創出と郷土への愛着を高める
- 効果的で一貫した行政施策を展開できる

市民・地域を中心に
連携・協働して
進めます

